

夢に向かって

困難を楽しめるタフな人になりたい——

すがの あさひ
菅野 朝陽 さん (県北中3年)

第35回

私の将来の夢は、具体的に決まっていますが、どんな困難にも負けずに、その困難を楽しめるタフな人になりたいです。精神的にも肉体的にも強い人間になり、周りから頼られる存在でありたいです。中学時代から始めたバスケットボールを高校でも続けて、精神力と体力を鍛えていきたいと思っています。

今は、体力が落ちないように定期的にランニングやバスケットボールをしています。

私は、運動することと同じくらいものづくりが好きなので、建設業と製造業に興味があります。好きな分野に進む

ことで、困難なことも乗り越えられると思いますし、楽しいと思える時が多いような気がします。

私は、あまり緊張しないタイプで、物事を冷静に判断できることが強みです。部活動では、チームの状況に応じた声かけを心がけてきました。チームが緊張している時は、笑顔になれる言動でチームメイトをリラックスさせたり、士気が下がっているときは、励ましの言葉で鼓舞するなど、チームを引っ張ってきました。将来、社会に出た時は、チームを支え、引っ張っていける存在になりたいです。そのためには、何事も前向きに捉えて楽しむことが大事だと思うので、この姿勢を忘れずに、これからも努力していきたいと思っています。

国見の民話

かるた

【第二十三回】
猫のしかえし



【猫打つな 死んでたたるぞ いつまでも】

昔、阿武隈川をはさんで仲の良い女性同士がいて、年に一度、お互いの家を訪ね合っていた。

ある年、川向こうの友達を訪ねると、友達は大喜びで魚をご馳走しようと支度を始めた。すると、その家の猫が準備した魚をあつという間に食べてしまいい、客の女性は思わず、力一杯にその猫を叩いてしまった。すると、猫は「よくもおれのことを叩いたな、帰りに喰い殺してやる」と客の女性が帰るのを待っていた。

客の女性はなかなか帰らないので、猫はひと休みしていたら、いつの間にか客の女性がいないなり、猫は急いで、客の女性が

乗る舟に飛び乗ろうとしたが、乗り損ねて溺れてしまった…。

次の年、客の女性が再び友達を訪ねると、どじょう汁を準備してくれた。だが、そのどじょう汁は煮ても煮ても泡が立つ。客の女性は不気味がつて食べなかつた。次の年は竹の子を煮たが、これも泡が立ち、客の女性は食べなかつた。

ある日、客の女性は巫女さんに拜んでもらうと、あの時叩いた猫の霊が出てきた。猫は「お前を殺そうと、どじょう汁と竹の子に化けたのに…」と言いつつ、悔しがっていた。その後、猫を供養して、客の女性は命拾いした。